

## 海賊対処行動水上部隊が無事任務を終え帰港

～ 第52次派遣海賊対処行動水上部隊帰国式典の様相 ～

第52次派遣海賊対処行動水上部隊がソマリア沖・アデン湾に向けて、2025年10月4日に日本を発つて以来、約6か月ぶりとなる2026年4月5日に横須賀港（神奈川県）に帰港した。

同隊は、飯尾啓正艦長が指揮を執る「おおなみ」であり、丹羽秀彰隊長以下海上保安官8名を含め、約200名の乗員が、事故無く任務を遂行し、無事帰国した。

派遣期間中は、ソマリア沖・アデン湾周辺海域においてゾーンディフェンスで商船の安全を確認したほか、中東地域における関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動も行ってきた。

式典では、飯尾艦長が、任務を完遂し、総員帰還した旨の報告を行った。

宮崎正久防衛副大臣は、「派遣海賊対処行動水上部隊が一丸となって無事帰国したことを心から嬉しく思う。現場海域において常に高い緊張感をもって諸外国と協力し任務に当たってきた一連の活動が海賊行為を抑止し海上交通の安全確保に大きく寄与した。日本の安全保障を支える諸官の献身的な働きに頭が下がる思いである。連日の厳しい任務に従事してきた諸官に改めて感謝する。」と訓示した。

大町克士自衛艦隊司令官は、「180余日にわたる派遣期間中の任務を完遂し無事帰国したことを大変嬉しく思う。情勢が流動的かつ事態急変を否定できない状況下、関係各所と緊密に連携して事態の警戒に万全を期し海賊対処行動および情報収集活動を行うことで船舶の安全航行に大きく貢献した。また、自由で開かれたインド・太平洋の実現に大きく寄与するものである。派遣期間中の諸君の努力と献身に最大限の敬意を表す。」と訓示した。

海上保安庁の彼末浩明海上保安監は、「約6か月の長期に及ぶ任務の遂行に最大の敬意を表するとともに、今後のますますの活躍を期待します。」と述べた。

当協会の長澤仁志会長は、「日本商船隊の安全確保に向けたご尽力誠に有難うございます！」と、半年以上に及ぶ長期任務に謝意を伝えた。

当協会からは長澤会長のほか、篠原康弘理事長、平尾真二常務理事、川崎汽船(株)三好康之安全運航チーム長、(株)商船三井 米田輝希海務ユニット長、日本郵船(株)春名克彦常務執行役員、NYKバルクシップパートナーズ(株)足立憲一執行役員、池田康宏業務管理グループ長が、国際船員労務協会からは綾清隆会長らが、全日本海員組合からは池谷義之国際局長らが出席した。

(海務部)

帰国行事



飯尾艦長に謝意を伝えた長澤会長



訓示する宮崎防衛副大臣



訓示する大町自衛艦隊司令官



挨拶する彼末海上保安監



宮崎防衛副大臣から表彰を受ける飯尾艦長



挨拶する長澤会長



母港に戻った「おおなみ」



任務を終えた隊員達



出席した海運関係者